



自社のマスコットキャラクターをAIで再現してみた

株式会社CBC Dテック
テクニカルセンター プラットフォーム技術部
大石 祐貴

自己紹介

2020年 入社 制作技術配属
カメラをメインとして映像技術を担当

2023年 カメラから報道サブ技術へ配置転換

2024年 業務の合間を縫ってAWSを少しずつ触り始める

2025年 コンテンツ技術部(制作技術)から
プラットフォーム技術部(テレビマスター/回線センター)へ異動

開発の経緯



CBC公式キャラクター
シェアシェア

シェアシェアは言葉を話すキャラクターだけど、
声が聞けるのは番宣番組など一部のコンテンツのみ...
→もっとおしゃべりするコンテンツを増やしたい！
→もっと簡単に制作できるようにする必要がある！



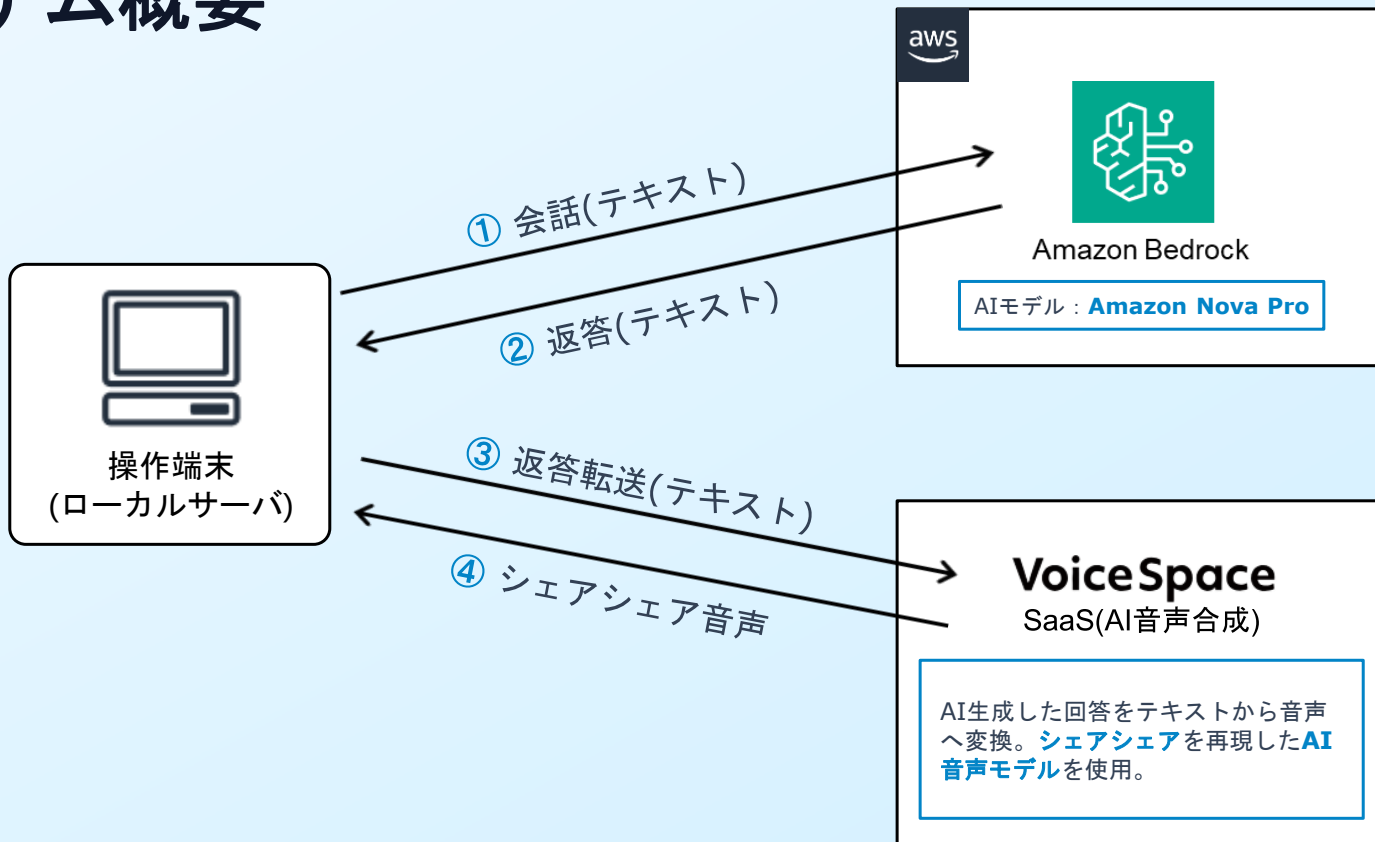
シェアシェアの声のAIモデルを作成してみよう！



是非イベントで活用したい！

AIを使って会話もできるようにしちゃおう！

システム概要



開発環境

- ・ **Visual Studio Code**

標準機能のコーディングエージェント(GitHub Copilot)に指示を出してプログラムを実装

開発当初はFreeプランでやりくりしていたが、あっという間に月間クォータを使い切ってしまったため、最後の1ヶ月はProプランに加入(1ヶ月間は無料で利用可能)

- ・ **開発用PC**

社内LAN端末はソフトウェアのインストールがNG

→技術部で購入した汎用ノートPCを開発用に

Amazon Bedrockを選んだ理由

CBCのグループウェアはGoogle WorkspaceなのでGeminiを使うほうが便利では？

開発用PCは社内LANアクセス不可、Google Workspaceが使えない
汎用のインターネット回線で運用できるほうが都合が良い



社内のセキュリティポリシーに縛られず、かつ安心して使えるAWSにしよう！
セキュリティを担保しつつ、柔軟な外部アクセスを両立できるプラットフォームとしてAmazon Bedrockを選定

Amazon Bedrockを選んだ理由

Bedrockでは様々な基盤モデルを選択可能

開発当初 ⇒レスポンスのスピード重視で「**Amazon Nova Lite**」を選択

LLMとしての回答速度の差はそこまで気にならなかった
⇒回答精度向上のため「**Amazon Nova Pro**」に変更

使用状況に合わせて最適なモデルを選択できるのがメリット

「CBC 5ちゃん春祭り」での運用

今年3月に開催した自社イベントにて、来場されたお客さんとAIシェアシェアの会話が実現しました！



春祭り用に実装した機能

① フリートーク

シンプルな会話をするだけのモード。会話履歴がテキストで残る。

② 質問

あらかじめ用意しておいた質問をシェアシェアが発話し、お客さんの返答を入れるとさらに返事をする。

③ ポン出し

「こんにちは」「ありがとう」などよく使いそうな言葉をあらかじめ用意しておき、ポン出しで再生する。

④ しりとり

シェアシェアがしりとりをしてくれる。しりとり言葉はAI生成と手動入力どちらにも対応。

今後の展望

キャラクターの再現はプロンプトで細かく指示することでそれなりにうまくいった

ハルシネーションを減らそうとプロンプトを試行錯誤したが、うまくいかなかった
→**RAGを実装して回答の精度を高めたい**

特定の分野に特化した会話エージェントの開発も視野に